

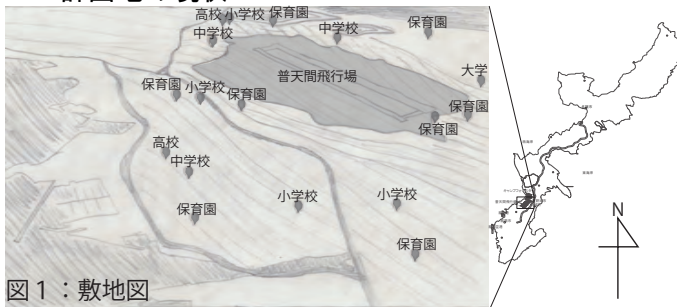
# あしびなー — 普天間飛行場返還跡地計画 —

八代研究室  
01712016 伊集 朝基

## 1. 普天間飛行場について

沖縄県宜野湾市にある普天間飛行場(通称: 普天間基地)は、1945年沖縄戦の後、軍用飛行場として拠点になっている。滑走路の長さ 2,700mあり、幅が 46mになる。基地周辺には、住宅街が密集していることで、「世界一危険な基地」とされている。数多の事件・事故などを機に、1996年普天間基地移設計画が持ち上がった。しかし、まだ返還はされていない。そこで、2022年に予定されている普天間基地返還を見据えたその跡地に子供たちの通学路(道)と実体験からのより道を提案する。

## 2. 計画地の現状



普天間基地周辺には、学校が多く存在する(図1)。しかし、基地の中に入ることができず子供たちは基地を迂回して登下校している。私自身も、学生時代迂回して登下校していた。

## 3. あしびなーの計画(図2-1, 2, 3)

本計画では、通学途中のより道と、そのあしびなー(遊び場)を設計する。起伏な地形を活かし計画していき、西海岸を眺めるような配置計画を考える。現在残っている建物も活用していく。

### ① 通学路(道)

戦前の並松街道とミチを復活させ、そこが通学路となる。そこにできる、アジマー(交差・十字路)やスージ(路地)をポイントとしてそこをあしびなーとする。

### ② より道を眺める観覧スペース

滑走路を沖縄の伝統舞踊の舞台とし、それを観覧

できる場所を設計する。グスクをモチーフに段々になるよう計画した。



### ③ より道途中にある休憩所

幼少期の記憶で、昼間公園のトイレの近くで車を止め、寝ているタクシーのおっちゃんを基に設計する。休憩所にもなり、ゆいまー(繋がり)の場所ともなる。



### ④ より道で遊ぶカー(泉)

戦前あったカーを復活させ、子供たちのあしびなーを設計する。レベル差の石垣を積みそこを登って遊べるようにした。



### ⑤ より道に見えるシンボルツリー

幼少期の記憶で、1本の木の下で遊んでいたことを基に設計する。飛行場の地形で高い所にあり、市の木のリュウキュウコクタンを使用し、その周りがあしびなーとなる。



## 4. おわりに

本設計では先祖伝来長い間、足を踏み入れることができなかった土地に、道を通す。その道を全世代が利用することで、沖縄県民特有のいちゃりばちよーでー(皆兄弟)精神を深めることを期待する。

図 2-1:1945 年地図



図 2-2:2020 年地図

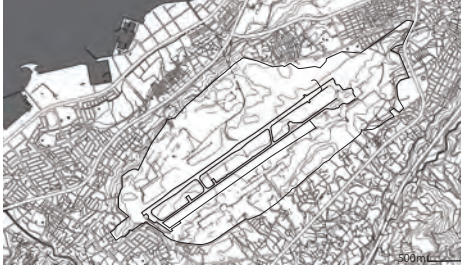
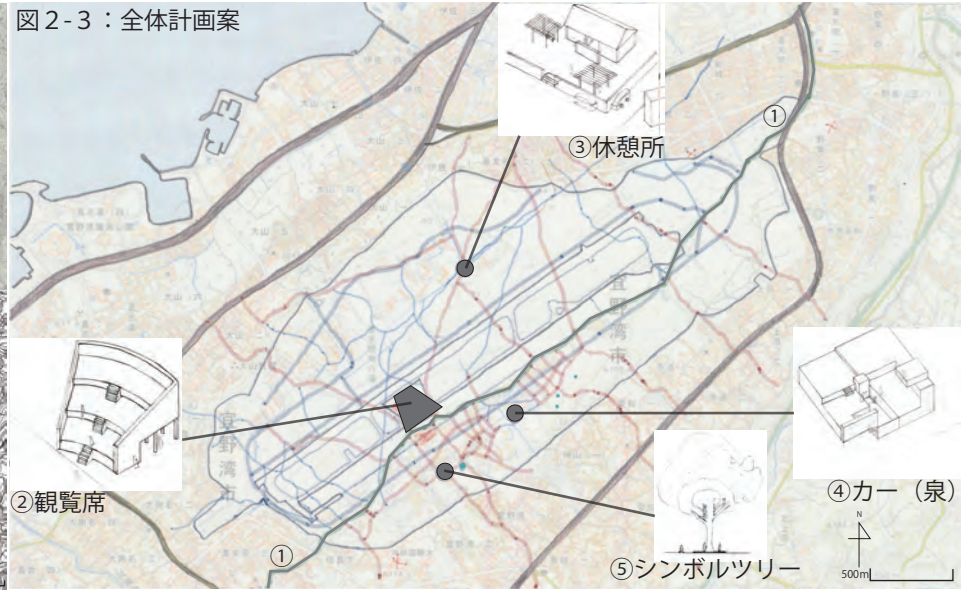
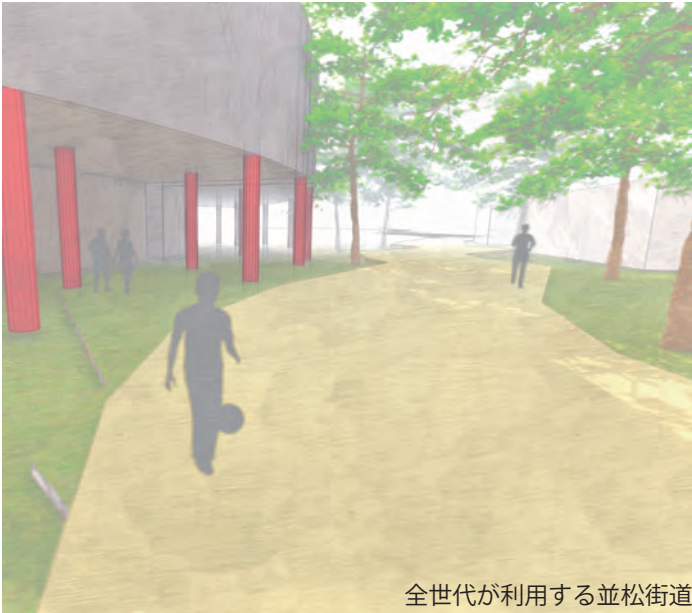


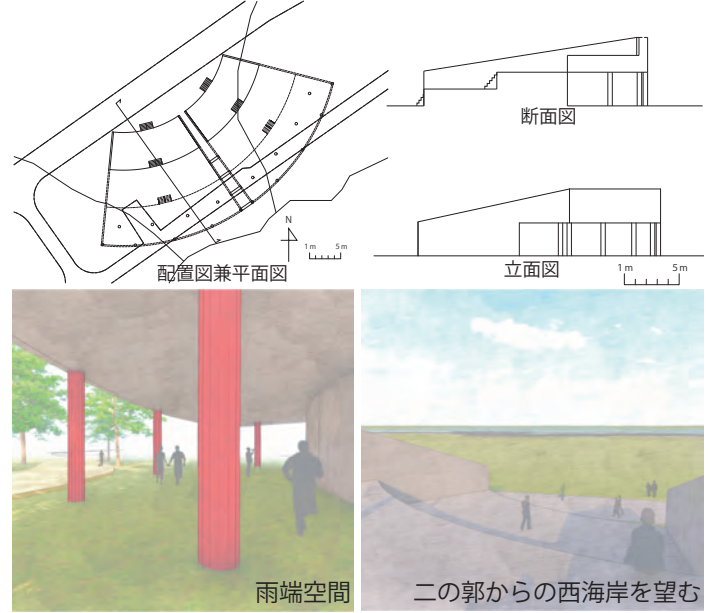
図 2-3:全体計画案



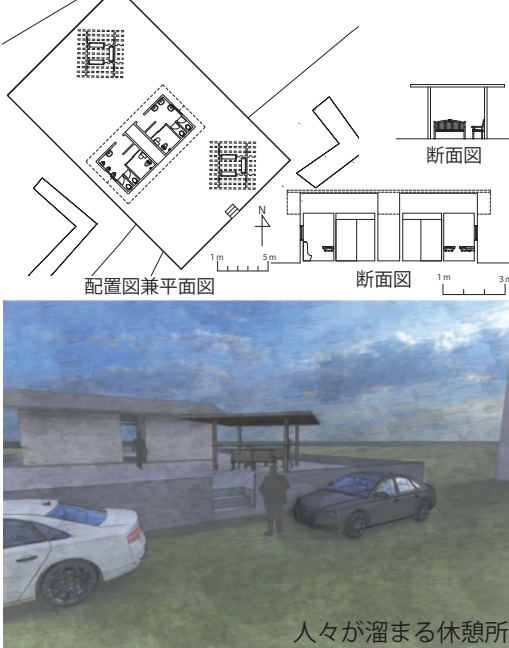
① 道



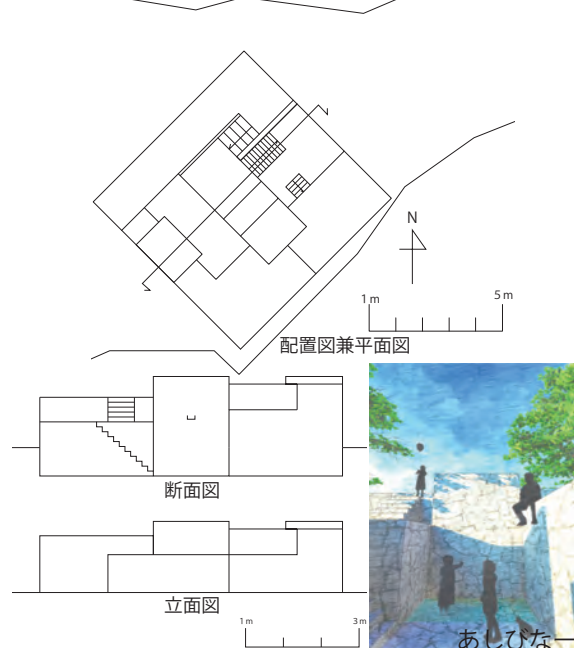
② 観覧席



③ 休憩所



④ カー (泉)



⑤ シンボルツリー

